

別紙（事後評価書）

令和4年度文化芸術振興費補助金（劇場・音楽堂等機能強化推進事業）

通し 番号	10	事業区分： 劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業
		助成対象団体名： 公益財団法人びわ湖芸術文化財団 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール
		施設名： 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール
<p>助成対象活動に関する評価</p> <p>（妥当性）</p> <p>滋賀県が策定した「滋賀県文化振興基本計画」を踏まえた滋賀県立芸術劇場びわ湖ホールのミッション・ビジョンと事業計画の整合性については明確で、これらの達成に向けて事業は適正に組み立てられている。</p> <p>また、さまざまな手法で音楽に関わる人材を養成する取組、オペラの鑑賞機会のすそ野拡大、あらゆる人々が芸術文化を享受できる社会基盤の構築を目指したさまざまな事業は、地域の特性から導き出された対象者や地域のニーズがもとになっており、助成に値する文化的、社会的意義等が認められる。</p> <p>（有効性）</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響を受けたものの事業は一定の水準で実施され、下記のとおりそれぞれの目標に対する成果が表れた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標1「舞台芸術の創造発信」の「自主制作オペラの事業数」という指標においては、毎年1事業が実施され、「自主事業公演数」も目標値に近いところまで実績値が上がってきており、国際水準の実演芸術の創造発信が認められた。 ・目標2「舞台芸術にかかわる人材育成」では、「びわ湖ホール声楽アンサンブル」卒団者数という指標においては目標値を超えており、達成している。 ・目標3「舞台芸術に親しむ観客の創造」では、「助成対象事業入場者・参加者数」という指標においては目標値を10%程度上回る実績をあげ、県教育委員会との連携による小中学生向け事業でも、コロナ禍の影響から回復して、鑑賞者は昨年度対比約150%の実績であった。 <p>以上のことから、目標は達成され、アウトカムの発現が認められる。</p> <p>（効率性）</p> <p>事業はほぼ計画どおり実施されており、事業期間は適切であったと認められる。</p> <p>また、事業費については、要望時の予算額と報告時の実績額とを比較すると、一部の費目に増減があったものの、ほぼ計画どおり執行されており、適切であったと認められる。</p> <p>（創造性）</p> <p>「舞台芸術の創造・発信」として実施された、ドイツを中心に活躍する指揮者・沼尻竜典芸術監督によるプロデュースオペラ・シリーズにおいては、所属団体にとられない歌手のキャスティングや劇場の持つ機能を最大限活用し、国際水準の舞台芸術を創造発信しており、独創性、先導性が認められる。</p> <p>「舞台芸術にかかわる人材育成」では「沼尻竜典オペラ指揮者セミナー」で若手指揮者を、「イタリア声楽曲研修」で若手声楽家の育成を図ると同時に、受講者のみならず一般にも公開し、広く学ぶ機会を提供した。これらは世界的にも例を見ない音楽家養成セミナー</p>		

別紙（事後評価書）

一であり、国内外からの注目度も高く、海外からも受講者、聴講者が集まった。また、「舞台技術研修」では、全国の劇場からの参加者に加えて、連携協定を結ぶ大学から芸術系学科の学生も参加するなど、独創性、先導性が認められる。

「舞台芸術に親しむ観客の創造」では、国内で唯一アカデミー要素を持つ専属団体「びわ湖ホール声楽アンサンブル」が、人材養成機関として機能している。71名の登録歌手（卒団者）が国内外で声楽家として活躍していることは、独創性を発揮するための資源として認められる。また「びわ湖ホール声楽アンサンブル」を活用し、県内各ホールと提携したオペラ公演や、地理的に当該劇場・音楽堂等へ来ることが難しい子供たちにクラシック音楽を提供する「学校巡回公演」を実施し、文化活動への参加、鑑賞機会の充実を促進している。また、小学生をホールへ招待してオーケストラや声楽アンサンブル公演を聴かせる「びわ湖ホール音楽会へ出かけよう！」は地元新聞などでも取り上げられ好意的な感想を得ている。これらの事業には、独創性が認められる。

このホールの根幹をなす「プロデュースオペラ」シリーズは芸術監督の沼尻竜典を中心に、世界的に活躍する演出家を招へいし、所属団体にとらわれず、演目に適した歌手を国内外から起用するなど、新演出によるオペラを制作した。また、ワーグナー「ニーベルングの指環」4部作や「パルジファル」のように、世界レベルで比較できる上演が行われ、W10と呼ばれるワーグナー10作品の全てを、日本で初めて一つの劇場で同じ指揮者により実施したことは特筆すべきことである。特にYouTubeによる『神々の黄昏』の無料配信は世界中で41万人が視聴するなどライブ・アーカイブ配信のさきがけとなり、第68回菊池寛賞を受賞した。更に、第51回ENEOS音楽賞を受賞するなど、国内外から高い評価を得るところとなった。

また海外からの招へい事業やオペラの自主制作事業を通じて海外スタッフとの協働が図られ、企画制作者や舞台技術者の舞台制作及び技術向上につながっており、今後も高い水準の舞台公演の実現が期待できる。

以上のことから、事業内容が、独創性、新規性、先導性等に優れており、事業の実施によって、当該劇場・音楽堂等の国内外での評価の向上につながったと認められる。

（持続性）

財政面では、県との密接な関係を基礎とした安定的な財政支援に加え、地元企業や個人からの支援も順調に伸ばしており、財政基盤の確保、強化がなされている。

組織面では、県の出向職員から財団プロパー職員への転換を進め、専門性を高めるための組織体制強化が図られている。

また創造的活動の核でもある「びわ湖ホール声楽アンサンブル」の育成とともに舞台スタッフについても地域連携による他のホールとの技術交流や舞台技術研修など「教える」ことを通じた育成にも努めている。

以上のことから、事業計画を通じて組織活動が持続的に発展し、発現したアウトカムが定着することが期待できる。

（総 評）

当該劇場・音楽堂等の事業計画「三方よし創造実践事業」は妥当性、有効性、効率性、創造性、持続性において適切に実施されたと認められる。

今後も、当該劇場・音楽堂等が持つオペラ制作力と人材育成力といった強み・特色を生かした、戦略的な事業展開が期待できる。